

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520316

研究課題名（和文） 「芸術区」を中心とした中国都市文化の地域比較研究

研究課題名（英文） The local comparative study of the Chinese city culture centering on an "Art division"

研究代表者

牧 陽一 (MAKI YOICHI)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：40241921

研究成果の概要（和文）：

広州・上海・北京へと大規模な調査を実施し、現代アートの状況取材した。中国の地域によって芸術区の現状はかなり相違しており、それぞれの特徴が見出せる。また現代アートの趨勢として、単にバブル経済に乗って商品化を進めるばかりではないことが明白になった。現代アートは体制的な「社会主義リアリズム」からは遠く対照的である。彼らは「貧困」「格差」といった今日の課題に対して、現代アートの言語で全媒介を使って鋭角的に表現する「ピュア・リアリズム」を誕生させた。

研究成果の概要（英文）：

Large-scale investigation was conducted to Guangzhou, Shanghai, and Beijing. The situation of the contemporary art became clear. The present condition of an art division changes considerably with areas in China. Each special feature can be found out. Moreover, some of the artists do not advantage of the becoming economy to expand their market. What they do is far from the arts of the socialist realism, now. By using art, they try to demonstrate realistically how those social problems as "poverty" and the decline of the welfare system ruin the life of the Chinese public. This led to the emergence of the "Pure realism".

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：

- (1) 中国現代アート (2) 798 大山子芸術区 (3) 草場地 (4) 莫干山路50号
(5) 艾未未 (6) 蔡國強 (7) アヴァンギャルド・チャイナ (8) ピュア・リアリティ

1. 研究開始当初の背景

「身体性を軸とした中国近現代文化史構築のための超領域的研究」を進行してきた

2005-7年、北京と上海を中心とした現代アートの状況を調査してきた。重要なことは、活動の根拠地〈場〉と思想の問題である。北京や上海などの大都市では「芸術区」が活動の

中心になっている。上海の莫干山路 50 号の「東廊画廊」のあたりは繊維工場の跡地で、数 10 箇所のギャラリーがある。北京では 1950 年代に東ドイツの援助によって建築された 798 工場跡「大山子芸術区」が現代アートのメッカとなっている。ここには数十人のアーティストのアトリエやアート・スペース以外にブティックやレストラン、書店、印刷デザイン事務所、バー、カフェ、ライブハウスなど様々な店が集まっている。また随時ドキュメンタリー映画の上演や芸術祭、ライブ、コンサートなどが行われている。映像・音楽・アートなど都市文化発信地の様相を見せる。また今も細々とではあるが幾つかの工場は操業中で、労働者の姿もよく見かける。これは現代版のコミュニケーションの場ともいえる。東ドイツからの援助でできた工場ということからも接点をもつが、大山子 798 国際芸術祭の総合プロデューサー黄銳はバウハウスとの関連に言及している。先進的な芸術家と一般市民の結びつきを強め、芸術と技術の新しい統合を図るバウハウスの理念と労働者を国家の主人とする毛沢東思想がこの芸術区の行動の基点になっているのではないかと仮定した。

だが昨今は「芸術区」までもが商業主義に巻き込まれ、「外人さんの遊園地」と言われるほどに、「墮落」してしまった。芸術区は健康な発展を維持できるのか、あるいは単なる「商業地区」になってしまうのか、厳しい状況に立たされている。あるいは他の地域に新たな「アート・コミュニケーション」を形成していくのだろうか。こうした問題は単に文化史だけの問題ではなく、政治経済、まちづくり、「社区」の自治性など多面的な問題が集約されている。よって当研究には領域を超えた多彩な成果を期待できるものと考え、計画を立てた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の最終的な目的は、従来の中国現代文化研究において重要な視点でありながら永く着目されることのなかった〈場〉の研究、「芸術区」研究を糸口に中国都市文化生成と行動の特色を考察することである。

本研究は近現代中国の社会的な激動がもたらした文化的変容について〈場〉（「芸術区」）を軸に再構成しようとする。交付期間中にはこれらの作業を 3 つの時代と 2 つの地域に分割して推し進める。

第一に歴史的な変容過程の研究である。まず 1930 年代上海などの大都市に形成されたモダンな都市文化、さらに農村の貧困の中で形成された普遍的な（あるいは封建的な）農

村文化を対照的に捉えていく。次に中国共産党根拠地延安時代から建国、50 年代、文化大革命に至る都市文化の形成、変容の過程を解明していく。こうした歴史的背景のもとに、文革終了後、現在に至る都市文化の変容を見定める。ここでは「芸術区」の具体的な活動を中心に大衆的文化状況も視野に入れつつ、考察を進めていく。以上の作業と検討を通じて、現代中国の都市文化生成と行動の変容、特質、問題点を究明していく。

第二に地域的な差異をめぐる研究である。中国では主に北京・上海・広州を中心に調査を行う。さらに台湾の芸術区を比較の対象にする。台北「華山文化園區芸文特区」台南「台南芸術大学応用芸術研究所」高雄「駁 2」などである。どれも市政府などによる運営など公共的な側面が強いが、その点で「民営」の北京や上海などと比較検討する必要がある。以上の調査、研究によって中国の「芸術区」の特色を抽出する。

(2) 研究の意義・特質・独創性、及びこのテーマに関する国内外での研究の現状と本研究計画の特徴

従来中国文化研究では文学作品、美術、演劇、映画、音楽など各ジャンルに分けた研究が主流となっている。また時代的にも 1930 年代以降を総括的に論じた成果は乏しいと言わざるを得ない。本研究は「芸術区」を糸口にしてこれら範疇と時代さらに中国・台湾地域の垣根を越え、比較検討を重ねる。また広範囲かつ通史的に論じることで中国都市文化生成と行動の普遍性と特徴を抽出する。つまり広範な材料によってより明確に複雑な文化の姿を描くことに特色がある。多様な媒介を調査研究し、文化的要素を抽出していく。

また一方的な西欧モダニズムの受容という偏狭なアジア文化理解を超え、核心的な文化要素を抽出することを特色とする。本研究以降には文化研究（カルチュラル・スタディーズ）の一定の方法と視点、方向性までもが提示されるだろう。

こうした研究の先達にはアメリカのレイチョウ（周蕾）、李欧梵らが挙げられるだろう。レイチョウは「プリミティブへの情熱」の中で 1980 年代中国映画における原初性の表出が戦略的であることを分析した。また李欧梵は「上海摩登（モダン）」で 1930 年代の中国都市文化をモダン女性の表象を元に究明した。また北京大学の戴錦華の存在も大きい。彼女は「霧中風景」で 1980 年代以降の中国映画を捉え、ジェンダー・スタディーズ

- ① 東洋文庫、東京大学東洋文化研究所、早稲田大学図書館、同演劇博物館、東京藝術大学図書館、中国研究所、京都大学人文科学研究所、天理大学図書館、愛知大学図書館等、各研究機関所蔵の「上海などの1930年代都市文化」から「延安時期の毛様式生成」に関わる図像資料、文献の複写、整理。
- ② 上記研究機関および福岡アジア美術館等所蔵の建国以前の美術作品、カレンダー、ポスターなどの閲覧、複写、整理。
- ③ 北京大学中文系・中国社会科学院文学研究所・中国芸術院話劇研究所、美術研究所・中央美術学院・中央戯劇学院など中国、北京の研究機関所蔵の関係文献の複写、整理。当研究に関して北京の研究者にレビューを受ける。
- ④ 上海市図書館、復旦大学図書館等の関係文献の複写整理。
- ⑤ 上海市美術館等のキュレーター、アーティスト、上海文化研究者に研究に関してレビューを受ける。
- ⑥ 広州美術館等で資料の収集、整理を行うとともにキュレーター、アーティスト、広州文化研究者に研究に関してレビューを受ける。
- ⑦ 台湾の台北美術館、台南、高雄で当該研究に関する資料を収集、整理すると共に研究者に当該研究に関してレビューを受ける。
- ⑧ 日本、中国、ドイツ、アメリカ、ロシア等で出版された都市文化論に関わる書籍の購入、整理。
- ⑨ 中国・台湾の現代アート、ドキュメンタリー映画、小劇場演劇などの記録資料、視覚資料の収集と整理を行う。
- ⑩ 上記の文献の文献目録、雑誌の目次目録を製作する。
- ⑪ 上記③～⑦の都市の「芸術区」北京「798 大山子芸術区」「芸術東区」「酒廠」「宋庄」上海「莫干山路 50 号（通称M50）芸術区」台北「華山文化園区芸文特区」台南「台南芸術大学応用芸術研究所」高雄「駁2」に関して具体的に実地調査する。

(4) 具体的に必要な資料について

計画にある都市文化に関わる文献、図像資料である 30 年代の大衆的娯楽雑誌『良友画報』『時代画報』『婦人画報』『婦女新都会』等は『良友』がリプリント版で揃っている以外は 2、3 年分の一部を閲覧し、複写しただけである。今後も継続して複写

と内容の検討が図られる。

「都市文化論」に関わる書籍も一部収集が為されたが、まだ不十分であり、継続して収集、調査していく必要がある。

(5) 具体的な調査について

年間二回、二～三都市を調査する。現在あげられる調査対象都市、地域は以下のとおりである。

北京「798 大山子芸術区」「芸術東区」「酒廠」「宋庄」上海「莫干山路 50 号（通称M50）芸術区」広州、香港、台北「華山文化園区芸文特区」台南「台南芸術大学応用芸術研究所」高雄「駁2」

以上に関して、芸術区の生成に関する歴史的状況、地理的状況や芸術区を構成する人的関係等具体的に実地調査する。

現地のアーティスト、キュレーター美術関係者に聞き取りをするとともに、録画、写真撮影して、DVD、CDRなどに記録する。

(6) 具体的な費用について

上記(4)(5)については海外旅費をこれに当てる。年間合計2週間から一カ月ぐらいの北京、上海、広州、香港滞在、さらに台北、台南、高雄の滞在調査（合計費用100万円前後）を予定している。実施については現在すでに北京、上海、広州などで調査、交流を始めており、支障はない。各図書館での建国以前の古い資料は紙によるコピーが禁じられている場合が多い。マイクロフィルムかデジタルカメラで接写する方法が採られている。現代アート、とりわけパフォーマンスの取材や各作家、研究者へのインタビューにはデジタルビデオが有効で、それぞれDVDに焼き付けて保存する。こうした事情から本研究ではデジタル機材の充実が図られる。VCD・DVD編集用のコンピューターおよび周辺機器ソフト20万円を予定している。資料の整理、目録の作成等については謝金を当てる。5-10人の支援、延べ100時間以内、（費用10万円以内）を予定している。

以上の資料を埼玉大学に集中し、整理、検討を行う。

研究の成果を以上の成果を口頭発表・報告・論文・単行本にまとめて発表する。

単行本に関しては現在、企画書を作成し、関係出版社と交渉を行う段階にある。

4. 研究成果

当該研究の初年度である2008年9月、広州・上海・北京へと大規模な調査を実施する

ことができた。広州では「広州トリエンナーレ」を開催準備段階から調査することができた。また広州のアート・スペースでは「ピンポン・アート」「ビタミン・クリエイティブ」「小洲」などを調査することができた。資料面では「広東美術館」から「毛沢東時代美術」の図版ファイルを借り受けることができ、毛沢東時代のプロパガンダ美術に関する図版資料が整った。

上海では「上海ビエンナーレ」のほかアート・フェア、「莫干山路50号」などの美術展、芸術区を調査できた。北京では「798」「草場地」などの芸術区を調査し、多くのアーティストにも研究に関して助言を受けた。また書籍や資料も購入収集できた。

現時点での成果は中国の地域によって芸術区の現状はかなり相違しており、それぞれの特徴が見出せることである。また現代アートの趨勢として単にバブル経済に乗って商品化を進める作家ばかりではないことが明白になった。現代アートは「30年代美人画」「毛沢東様式」などをポップ・アートやキッシュに換骨奪胎させてきた。現在は体制化された「社会主義リアリズム」にある教条主義的な正義感を払拭させた。そして現代アートの言語で「貧困」「格差」といった今日の課題を、全媒介を使って鋭角的に表現する「ピュア・リアリズム」が誕生している。こうした趨勢は世界不況に見舞われた今日の状況に対する共通した表現方法として意識される。

以上の報告の一部は『BT美術手帖』のワールドニュース、「不是鉄、也不是花（鉄でもないし、花でもない）一文革から現代アートへの女性の視覚表象」に載せた。また口頭では新美術館での「アヴァンギャルド・チャイナ」展シンポジウムや首都大学東京・秋葉原でのコロキウム「プロパガンダと芸術」で発表することができた。

当該研究の2年目である2009年7月森美術館で「艾未未 Ai Weiwei 展 何に困って？」が開催され、艾未未に会い、活動について話を聞くことができた。9月には北京調査を実施することができた。北京では「798」「草場地」などの芸術区を調査し、艾未未、楊少斌、楊福東ら多くのアーティストやユーレンス現代芸術センター館長ジェローム・サンスらに会い、現代アートの状況、研究に関して助言を受けた。また関係書籍や資料も購入収集できた。やはり9月福岡アジア文化賞授賞記念フォーラムでは蔡國強に会い、体制とアートに関して質問した。作家との会談で筆者

に意識されたのは体制と作家の関係であり、この点で、艾未未と蔡國強は対照的な存在であると思われる。

2008年の広州・上海・北京、2009年北京調査の結果は「埼玉大学紀要教養学部」に公表した。広州ではハイブリッド・アートが模索され、上海では農村と都市の貧富の差など社会問題を意識した作品群が目立った。北京もまた同様で、より鋭角的な「ピュア・リアリズム」が誕生している。

以上の研究成果は「埼玉大学紀要教養学部」やフォーラムでの発表で公表できた。

当該研究の最終年度3年目である2010年9月には北京「草場地」「798」などを調査した。艾未未に会い、中国現代アートとの関係、活動について話を聞くことができた。インタビューは翻訳整理しweb版ART iTに公表予定である。また艾未未著「此時此地」の翻訳を依頼され、着手した。

2010年11月国立近代美術館地下講堂で「2010日中美術シンポジウム：美術とグローバリズム」が開催され、「グローバリズムと中国現代アート」と題して発表した。情報公開と労働価値の均一化をグローバリズムの主題とし、艾未未らの四川大地震責任追及の活動を支持することを表明した。この時点で、中国側からは「艾未未はただの不満分子であり芸術家とは認めない」という発言があり、筆者と対立した。2011年4月3日に艾未未は逮捕拘留されたままである。現在は艾未未研究を進めるとともに釈放を求めている。

2010年の日中現代アートの比較研究の成果は「埼玉大学紀要教養学部」に公表した。その後、黒ダライ児『肉体のアナーキズム』が公刊され、一挙に研究が深化した。今後もこの課題を掘り下げたい。さらに09年度の「草場地」ほかでの艾未未作品の調査などをもとに「三つの収租院」を発表した。革命伝統と現代アートの対立を浮き彫りにできたと自負している。日本は2011年3月11日東日本大震災に見舞われたが、四川大地震とともに共通する課題を、全媒介を使って鋭角的に表現する趨勢は、共通した表現方法として意識されると思われる。

以上の研究成果は「埼玉大学紀要教養学部」やシンポジウムでの発表で公表できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

- 1、牧陽一「三つの収租院」『埼玉大学紀要教養学部』査読無 第46巻(第2号)2011年(2011年3月)243-259p
- 2、牧陽一「中国と日本の現代アートを比較する」『埼玉大学紀要教養学部』査読無 第46巻(第1号)2010年(2010年9月)249-261p
- 3、牧陽一「中国現代アート調査と考察2008・2009 広州・上海・北京—消費されないこと Face up to Reality」査読無『埼玉大学紀要教養学部』査読無第45巻(第2号)2009年(2010年3月)199-209p
- 4、牧陽一「文革の表象から脱却する中国現代アート」(再録)日本現代中国学会編『新中国の60年—毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続』創土社2009年9月日本現代中国学会編『新中国の60年—毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続』創土社2009年9月査読無(単行本)2009 p211-236
- 5、牧陽一「不是鉄、也不是花(鉄でもないし、花でもない)—文革から現代アートへの女性の視覚表象」韓敏編『革命の実践と表象—現代中国への人類学的アプローチ』風響社2009年03月 査読無(単行本)2009 p.53-74
- 6、牧陽一「ワールドニュース 北京」『BT美術手帖』2009年01月 査読無 61巻917号2009 p.115
- 7、牧陽一「ワールドニュース 広州」『BT美術手帖』2008年11月 査読無 60巻915号2008p.118
- 8、牧陽一「ワールドニュース 北京」『BT美術手帖』2008年06月 査読無 60巻908号 2008p.89

[学会発表] (計4件)

- 1、牧陽一「グローバリズムと中国現代アート」2010日中美術シンポジウム:美術とグローバリズム?辻井 喬、建島 哲、邵大箴(中央美術学院美術史学部教授) 牧陽一(埼玉大学教授) 峯村敏明(美術評論家連盟常任委員) 呉孟晋(京都国立博物館研究員) 丁寧(北京大学芸術学院教授) 張曉凌(中国国家画院副院長) 杭 間(清華大学美術学院副院長) 2009・11・14 東京国立近代美術館講堂
- 2、牧陽一「蔡國強と和解ということ」福岡アジア文化賞受賞記念市民フォーラム「アートに何ができるのか」蔡國強・黒田雷児・牧陽一・(後小路雅弘 司会) 2009・09・16 アクロス福岡 B2 イベントホール 福岡市
- 3、牧陽一「毛沢東様式と中国現代アート」国際コロキウム「プロパガンダと芸術」首都大学東京芸術学研究室(長田謙一 司会) 2009・01・12(月・祝) 首都大学東京・秋葉

原

- 4、牧陽一 高名潞(GaoMinglu) 建島哲「中国現代美術の今とこれから」国立新美術館「アヴァンギャルド・チャイナ」展シンポジウム(平井章一 司会) 2008・08・23(土) 国立新美術館講堂

[図書] (計2件)

- 1、牧陽一「不是鉄、也不是花(鉄でもないし、花でもない)—文革から現代アートへの女性の視覚表象」韓敏編『革命の実践と表象—現代中国への人類学的アプローチ』風響社2009年03月 査読無(単行本)2009 p211-236 総ページ540p
- 2、牧陽一「文革の表象から脱却する中国現代アート」(再録)日本現代中国学会編『新中国の60年—毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続』創土社2009年9月日本現代中国学会編『新中国の60年—毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続』創土社2009年9月査読無(単行本)2009 p.53-74 総ページ309p

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者 牧陽一 (MAKI YOICHI)
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号: 40241921

(2)研究分担者 ()
研究者番号:

(3)連携研究者 ()
研究者番号: